

福井市との連携事業

もりた夢駅～冬物語

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

11年目を迎えた「もりた夢駅」、森田地区文化委員会と「遊房」(福井大学)と本学が連携して12月8日(日)に開催しました。バスや駅に関心を持っていただき、歩いて暮らせるまちづくりを推進することを目的として、内容を刷新しました。

“もりのわフェスタ”と同様、生活デザイン専攻1回生21名は「環境デザイン概論」、内山研究室2回生7名はゼミ活動の一環として参加し、ゼミ生は企画段階の会議にも参画しました。会議で検討を重ねた結果、大きく変わりつつある森田を子ども達に知っていただくために、試行運行を始めた“もりたんバス”で巡る「森田の魅力発見ツアー」を「遊房」が担当。本学は、駅への関心を高めるための企画として、ゼミ生が「タイムスリップ森田駅」と題して「宿直室ギャラリー」と「教えて! 昔の森田駅」を、1回生は「デザイン遊び」を担当しました。

当日は朝から氷雨模様でしたが、約80人の親子が参加。「森田の魅力発見ツアー」では荒天の中バスに乗り遅れたり、氷雨にぬれながらの竹灯の準備など大変な思いをしました。

今回は、コミュニティバスを使って移動するという初めての試みで、多少の失敗もありましたが、その意義は共有できたのではないかと思います。また、「タイムスリップ森田駅」での「教えて昔の森田駅」には多くの地元の

方や学生が興味深く昔の駅に様子に聞き入り、実際に使っていた宿直室での昔の駅や街の写真を興味深そうに見ていただき、有意義な時間を共有できたのではないかと思います。



教えて! 昔の森田駅



もりたんバスでめぐる森田の魅力発見ツアー



寒くて大変! 反省点もあったけど、それも学びの一つ。



竹灯にチャレンジ!